

EUROLINE 2

研究検査

2025年4月現在

検査概要

検査法 イムノブロット法

検査項目

- ・自己免疫性末梢神経疾患関連セット (Anti-Gangliosides Profile 2 (IgG), Anti-Gangliosides Profile 2 (IgM))
- ・自己免疫性消化器疾患関連セット (Autoimmune Gastrointestinal Diseases (IgA), Autoimmune Gastrointestinal Diseases (IgG))
- ・筋炎関連抗体セット (Autoimmune Inflammatory Myopathies 20 Ag (IgG))
- ・膠原病関連抗体セット (ANA Profile 23 (IgG))
- ・細胞質成分関連抗体セット (Cytoplasm Profile 13Ag (IgG))

材料 血清

必要量 200 μL

保存方法 深凍結

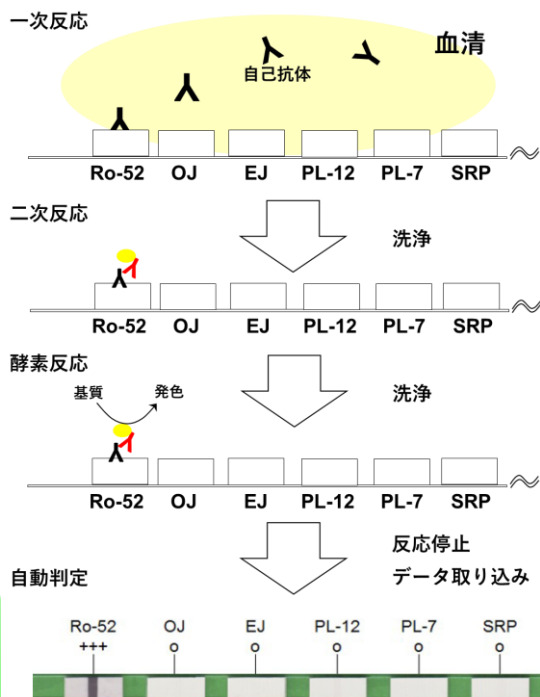
報告形式 0、(+)、+、++、+++

最低出検数 1検体

納期 検体受領後 2週間以内

測定原理／提供データ

測定原理



報告イメージ

患者ID: _____ テスト: _____
 インキューション日: _____ 患者名: _____
 検査室番号: _____

抗原	強度	クラス	結果
GM1 (GM1)	63	+++	+++
GM2 (GM2)	0	○	0
GM3 (GM3)	0	○	0
GD1a (GD1a)	3	○	○
GD1b (GD1b)	38	++	++
GT1b (GT1b)	0	○	0
GG1b (GG1b)	3	○	○

例：自己免疫性末梢神経疾患関連セット (Gangliosides Profile 2_EL_IgG)

結果区分	Result
陰性	0
判定保留	(+)
陽性	+
	++
	+++

EUROLINE項目

項目	測定項目
ANA Profile 23 (IgG) 23項目 〈膠原病関連抗体セット〉	nucleosomes, dsDNA, histones, SS-A, Ro-52, SS-B, nRNP/Sm, Sm, Mi-2 α , Mi-2 β , Ku, CENP A, CENP B, Sp100, PML, Scl-70, PM-Scl100, PM-Scl75, RP11, RP155, gp210, PCNA, DFS70
<目的・用途> 抗核抗体研究を目的とした測定項目です。 抗核抗体は、全身性自己免疫疾患である膠原病に広く高頻度に見いだされ、その抗原は、核酸、核タンパク質、リボ核タンパク質等の核成分など、数多く知られています。	
Autoimmune Inflammatory Myopathies 20 Ag (IgG) 20項目 〈筋炎関連抗体セット〉	Mi-2 α , Mi-2 β , TIF1g, MDA5, NXP2, SAE1, Ku, PM-Scl100, PM-Scl75, Jo-1, SRP, PL-7, PL-12, EJ, OJ, Ro-52, cN-1A, Ha, Ks, Zo
<目的・用途> 筋炎の研究を目的とした測定項目です。 筋炎は筋力低下を主徴とする慢性炎症性疾患で、その臨床像は多彩です。筋炎患者の50~80%に様々な細胞成分に対する自己抗体が存在し、その臨床像や病態に関係することが知られています。	
Cytoplasm Profile 13Ag (IgG) 13項目 〈細胞質成分関連抗体セット〉	CAMA-M2, M2-3E, ribosomal P-proteins, Jo-1, SRP, PL-7, PL-12, EJ, OJ, Ro-52, Ha, Ks, Zo
<目的・用途> 抗細胞質抗体の研究を目的とした測定項目です。 抗細胞質抗体の抗原は数多く知られています。その様々な自己抗体の検査は、筋炎、原発性胆汁性胆管炎(PBC)等の病態の研究に寄与することが期待されます。	
Anti-Gangliosides Profile 2 (IgG) 7項目 〈自己免疫性末梢神経疾患関連セット〉	GM1, GM2, GM3, GD1a, GD1b, GT1b, GQ1b
Anti-Gangliosides Profile 2 (IgM) 7項目 〈自己免疫性末梢神経疾患関連セット〉	GM1, GM2, GM3, GD1a, GD1b, GT1b, GQ1b
<目的・用途> ギランバレー症候群(GBS)の研究を目的とした測定項目です。 GBSは、四肢の弛緩性麻痺、深部反射消失を主徴とする多発ニューロパチーです。GBS患者の約60%において、ヒト末梢神経に存在する様々な糖脂質に対する自己抗体が検出されます。糖脂質抗体は先行感染や臨床像との関連も報告されており、これら自己抗体の検査はGBSの発症や病態の研究に寄与することが期待されます。	
Autoimmune Gastrointestinal Diseases (IgA) 3項目 〈自己免疫性消化器疾患関連セット〉	tTG, GAF-3X, ASCA(Mannan)
Autoimmune Gastrointestinal Diseases (IgG) 5項目 〈自己免疫性消化器疾患関連セット〉	tTG, GAF-3X, PCA, Intrinsic factor, ASCA(Mannan)
<目的・用途> 自己免疫性胃炎やセリアック病などの、自己免疫性消化器疾患の研究を目的とした測定項目です。 自己免疫性胃炎は、抗胃壁細胞IgG抗体や抗内因子IgG抗体などの自己抗体が関与し、自己免疫機序により胃粘膜の萎縮を引き起こす疾患です。セリアック病は小麦などに含まれるグルテンにより惹起される自己免疫疾患で、抗組織トランスグルタミナーゼ IgA 抗体や抗筋内膜IgA 抗体が検出されます。これら自己抗体の検査は自己免疫性消化器疾患の発症や病態の研究に寄与することが期待されます。	

測定施設：EUROIMMUN Japan 株式会社

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>